学校番号	115

令和２年度　国語科

教科	国語	科目	古典Ｂ（２年）	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	古典Ｂ（文英堂）						
副教材等	改訂増補版最新国語便覧（浜島書店） 読解のための必修古典文法改訂版（文英堂） 原色新日本文学史増補版（文英堂） 見て覚える読んで覚える古文単語３３０【新訂版】（文英堂） 新訂二版みるみる実力アップ古文２（第一学習社）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・１年生での既習内容を含めた文法事項や語彙力についての知識を深め、古典の文章を正しく読解する力を身につけていきましょう。
・予習として必ず本文書写や語句の意味調べを行いましょう。授業のあとにはわからないところはないか、振り返って復習してください。
・提出物は期限を守って、必ず出しましょう。定期考査は学習計画を立てて臨んでください。

２　学習の到達目標

・伝統的な言語文化に対する関心を持ち、国語を尊重する姿勢を養う。
・古典についての理解や興味・関心を深め、古文と漢文を読む能力を養う。
・古典特有のものの見方、感じ方、考え方などに触れながら、現代と共通するものが多くあることにも気づき、自分自身の考え方を広くし、人生を充実させる豊かな感性を育てる。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	古典のさまざまな作品に興味・関心を持ち、親しみを積極的に深めようとしながら、人生を豊かにしていく態度を持つ。			文章に表れた様々なものの見方や感じ方を読み取り、古典を読む楽しさや、表現のおもしろさを味読する。	古文と漢文に用いられている語句の意味用法及び文の構造について理解し、知識を身につけている。
評価方法	行動の観察 記述の点検 （ノート、ワークシート等）			記述の確認及び分析 定期考査	行動の観察 記述の点検 （ノート、ワークシート等） 定期考査 小テスト

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1学期	随筆(一) 物語(一)	教材: 『方丈記』 「ゆく河の流れ」 『伊勢物語』 「初冠」 『平家物語』 「敦盛の最期」 文法等…敬語	○			◎	○	a:著名な文章を通して話のおもしろさを読み取ろうとし、興味関心を持とうとしている。 d:作者や登場人物の関係や行動、心情を的確に読み取っている。 e:敬語の種類を識別し、誰から誰に向けた敬語かを読み取っている。	a:行動の観察及び記述の点検 d:記述の確認及び定期考査 e:小テスト及び定期考査
二学期	日記・紀行 物語(二)	『更級日記』 「あづま路の道の果て」 「源氏の五十余巻」 『源氏物語』 「桐壺」	○			◎	○	a:登場人物の言動や行動から人間に生き方について考えようとしたり、豊かな表現を味わって関心を深めようとしている。 d:登場人物の関係や行動を的確に捉え、機知や緊迫感に富んだ描写を味わっている。 e:敬語を中心とするこれまで学習した文法知識を正しく身につけている。	a:行動の観察及び記述の点検 d:記述の確認及び定期考査 e:小テスト及び定期考査
	史話	『史記』 「鴻門之会」	○			◎	○	a:故事や歴史物語の叙述のおもしろさを味わい、さまざまな人物像を通して人間の生き方についての考えを深めようとしている。 d:本文の構成を把握し、長い文章に慣れるとともに、登場人物の行動・心情や作者の意図を正しく読み取っている。 e:漢文訓読に慣れ、基本的な句法等の知識を正しく身につけている。	

三学期	物語(二)	『源氏物語』 「若紫」	○			◎	○	a:物語文学の世界に親しもうとし、時代の背景や文化的環境について理解を深めようとしている。 d:本文の構成を把握し、敬語の用いられ方から人物関係を読み取るとともに、登場人物の心情の動きを的確に捉えている。 e:敬語を中心とした文法知識と、読解の前提となる古典常識を習得している。	a:行動の観察及び記述の点検 d:記述の確認及び定期考査 e:小テスト及び定期考査
	思想	『論語』 「孔子」	○			◎	○	a:孔子の生き方についての考えを深め、自分自身を見つめ直すことができている。 d:作者の伝えたいことを正しく読み取っている。 e:漢文訓読に慣れ、基本的な句法等の知識を正しく身につけている。	

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:話す・聞く能力
c:書く能力　d:読む能力　e:知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。